

迎春

2011年は大震災、原発事故、台風と大変な年でした。救援活動などでの御支援有難うございました。今年こそ暮らし第一の政治をと思います。

2012年元旦

松尾

お元気ですか。
私は古希をすぎ、活動を整理し、地域と友の会を中心に活動とこほした。
山登りは続けます。
今年もよろしくお報い申します。



新春雪中登山で金剛山へ

土庫病院山歩きクラブの例会に参加

1月15日、土庫病院友の会山歩きクラブの第15回例会登山に参加し、奈良県と大阪府の境にそびえる金剛山(標高1125m)に登った。参加者33人。全員60歳以上、最高齢者は79歳の女性で平均66.9歳という高齢者登山。かく言う私も平均引き上げ組。

しかし、みんな元気。午前8時に五條市小和(おわ)の登山口を出発、途中から雪と氷の道に。全員アイゼンを装着。シャリ、シャキッと氷雪を切る音を響かせながら急傾斜の道を登る。多人数なのでパーティーの分散が心配されたが、それは杞憂に終わり、全

員ほぼコースタイムで歩いた。

頂上部ではそり遊びに興じる子どもたちの声が賑やか。国見城跡の広場で昼食。常緑樹も落葉樹も雪が張り付いて、鈍く光っており、その下で登山者たちが鳥寄せをしている。給餌台にヤマガラやコガラが寄ってきて、ピーナツを啜ってはすばやく飛び去っている。



下りも雪山の感触を確かめつつ、
予定より早めに水越峠に到着した。

野山の不思議 ⑱

浮き寝の不思議

大和盆地はため池が沢山あり、そこにはカイツブリやカモの仲間が暮らしていますが、今シベリヤなどから渡って来た冬鳥たちも群を作って春の到来を待っています。これらの鳥はしばしば水上に浮かんだまま、首を羽根に突っ込んで眠ります。これを「浮寝（うきね）」「浮寝鳥」と呼び、冬の季語になっています。



写

真は岡本茂さん

冷たい池は厳冬期には結氷しますが、そこでの浮き寝は不思議でなりません。子ども時代からのこの疑問に答えてくれたのが「ツルはなぜ一本足で眠るのか」（草思社刊1984年）という本でした。

実は水鳥は胸やお腹にあたる部分に保温性に富む特別の羽毛をもっています。特に「鳥の肌着」の役割をしているのが「ダウン」と呼ばれる密生した綿毛状の毛で、空気をたっぷりと含んで他の羽根（フェザー）と合わさって鳥の身体を守っています。このダウンが「羽毛布団」や「ダウンウェア」に詰められている羽根です。御存知の通り軽くて、暖かく、布団やジャケットなどに大きな保温性と伸縮性をもたらします。

また水鳥は羽づくろいをしますが、この時お尻の腺から出る脂をフェザーに塗りつけて撥水性を高めます。

さらに水鳥たちの脚の関節近くには「ワンダーネット」と呼ばれる毛細血管の網状組織があって、動脈と静脈がここで交錯しあい、足先からきた静脈血は暖められて体に戻り、動脈血は冷やされて足先に流れます。この仕組みで外温に対応できるので凍傷にかからないのです。



進化の過程で身につけた不思議な仕組み、能力に驚くばかりですね。

ところで、冬、寒気から鳥たちの身体を守ったダウンは、抱卵期には親鳥の体温が卵に伝わるのを妨げます。そこで、この時期ダウンは抜け落ちるのです。そして鳥たちは、その抜け毛を巣に敷き詰めて、子育てをするのです。柔らかくて温かい

素敵なベッドでしょうね。うまく出来ていますね。

ところがです。抜け目の無い人間は、捕獲も飼育も禁止されている希少種の水鳥の巣から、この抜け毛を集めて「高級ダウン」を作って儲けるのです。かないませんねえ！